

## 5. 植栽計画

## 5. 植栽計画

### (1) 基本的な考え方

「若草山に向かう動線の魅力を活かした植栽・景観を保全・継承する。」

計画対象地の植栽・景観は、各ゾーンそれぞれに特徴があるが、若草山に向かう歩行者のメイン園路沿いに植栽されたナラノヤエザクラとナラノココノエザクラと、歩行者のメイン園路から若草山に向けての眺望は、奈良公園の魅力を高める主要な要素である。本計画では、この魅力を活かした植栽・景観を保全・継承するため、次の2つの主要課題に取り組む。

主要課題 1：

ナラノヤエザクラ等の更新と配植の見直し

園路沿いサクラ林ゾーンは、ナラノヤエザクラとナラノココノエザクラが多数植栽されており、奈良公園の中でも特に生育の良いナラノヤエザクラが見られるところである。このナラノヤエザクラの壮齢木は、植栽後40～50年経過したもので、近年台風による風倒、樹勢の衰退が多く、一部では根頭ガンシュ病が発生している。

本計画では、ナラノヤエザクラとナラノココノエザクラ、その他サクラ類の健全な生育を図るため、それぞれの樹種特性に配慮して、適地に配植する。

主要課題 2：若草山が見え隠れする眺望の保全

計画対象地のメイン園路は、若草山山麓に向かう主要動線である。メイン園路から若草山に向けての眺望は、ランドマークとして若草山山麓への期待を高める要素といえるが、現在は生長した樹木に眺望が阻害され、視認できない状況にある。

阻害している樹木の中には、保全・継承すべき大径木も多く含まれることから、眺望を確保することが重要な地点で、かつ阻害樹木への対策が比較的容易な地点を優先して眺望を確保し、見え隠れする若草山の眺望景観を保全する。

## 5. 植栽計画

### (2) 計画方針

計画方針：サクラ林と若草山への眺望を活かした植栽・景観を保全・継承する。

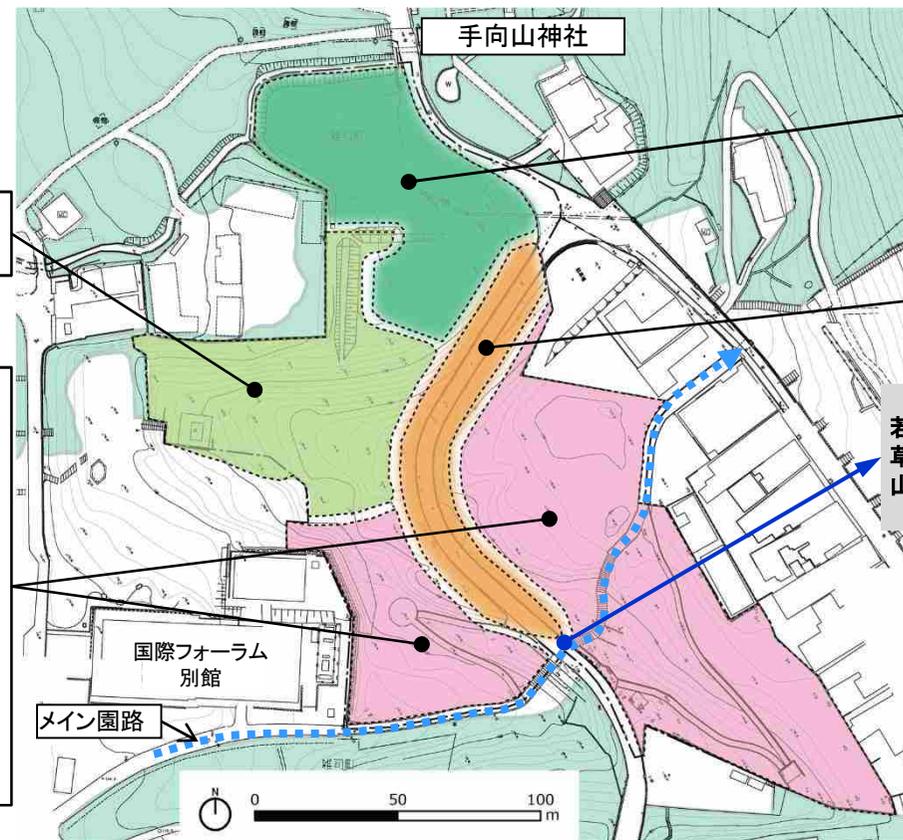
- ・ナラノヤエザクラなどの魅力を活かして、メイン園路沿いのサクラ類を保全・継承する。
- ・若草山山麓に向かうメイン園路から、若草山が見え隠れする眺望景観を保全する。

#### 尾根の自然林ゾーン

- ・ナンキンハゼを駆除する。
- ・偏りのある樹林を林相転換する。

#### 園路沿いサクラ林ゾーン

- ・サクラ類を保全・継承する。
- ・サクラ類の更新時には、日照の良い適地にはナラノヤエザクラ・ナラノココエザクラを植栽し、それ以外の場所での植替は、環境条件を確認のうえ、必要に応じて適したサクラ類を検討し、樹種変更する。
- ・大径木のモミヤクスは原則として保全・継承する。
- ・若草山への眺望を改善する。
- ・民地沿いの緩衝林は、若草山への眺望と民地への緩衝を両立する。



#### 神社前の樹林ゾーン

- ・手向山神社との調和に配慮し、門前の樹林・景観を保全・継承する。

#### 山麓道沿いモミジ林ゾーン

- ・イロハモミジが主体となった植栽・景観を保全・継承する。

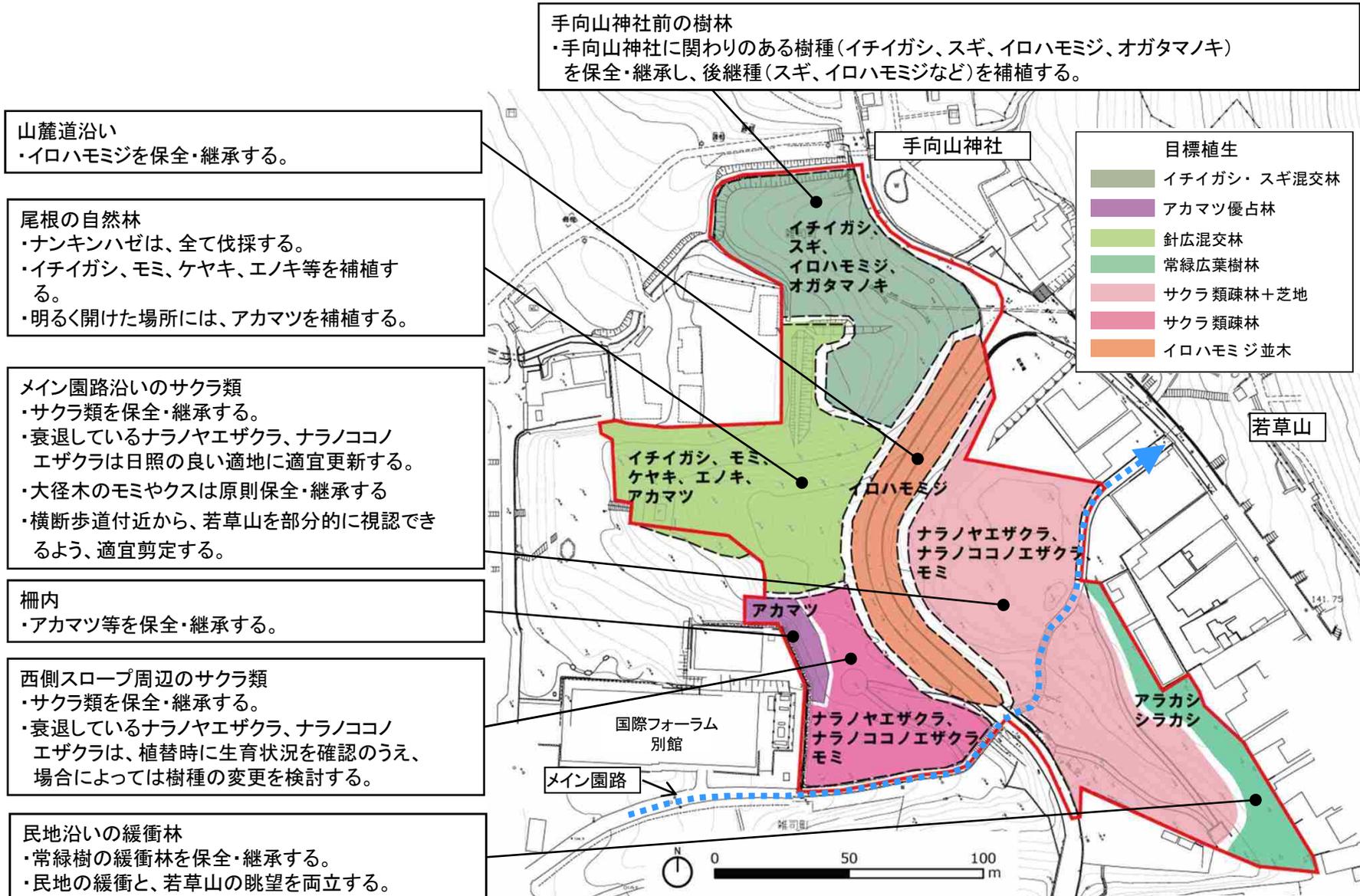
- 若草山への眺望を保全・継承する視点場

図：計画方針図

# 5. 植栽計画

## (3) 計画目標

注：図中の樹種は主要樹木を示す。



図：目標植生図

## 5. 植栽計画

### (4) 具体化に向けての検討

#### 1) ナラノヤエザクラの保全・更新

##### ① ナラノヤエザクラに適した環境づくり

奈良公園内においてナラノヤエザクラの生育が良い場所に共通する点は、①排水良好（尾根部など）、②日照が極めて良い（他の樹木が少ない芝地）の2点である。これは、サクラ類に共通する環境条件であるが、ナラノヤエザクラにとって特に重要と考えられる。よって、この2点に重点をおいて、適切な植栽箇所の選択や土壌改良、競合樹木の剪定等を検討する。

##### ② 地形の特色をいかした景観づくり

平坦地や斜面といった地形の特色をいかし、花を楽しむ場として、阻害している他の樹木の除伐や剪定、配植等を通じた景観を検討する。

##### ③ 根頭ガンシュ病対策

根頭ガンシュ病対策としては、土中の原因菌と拮抗する常在菌があることが望ましく、植付時に菌類で完熟する有機質改良材を積極的に導入することで耐性を強化する。また、根頭ガンシュ病は、土中の原因菌が雨水によって伝播しやすいと言われていることから、発病樹木からの雨水が到達しないところを選択して植栽することを検討する。

##### ④ 若木の生産量との調整

ナラノヤエザクラの若木は、公園事務所で生産されたものに限られるため、新植は生産量（10本／年程度）との調整が必要となる。よって、1年あたりの新植本数を抑制し、ある程度の期間をかけて、順次更新する。

##### ⑤ 病虫害への備え

サクラ類の群植が多く、病虫害の被害が大きくなりやすいことから、積極的な防除が期待される。特に、サクラ類の新たな害虫として、特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」が報告されており、注意が必要である。

#### 2) 尾根の自然林ゾーンの補植

##### ① 既存のイヌガシ林への補植

既存のイヌガシ林には、イヌガシに加えてアセビも密生しており、林内に植栽しても生育が難しい。よって林縁部などある程度日照のある場所に植栽するか、イヌガシの一部を除伐して植栽することなどを検討する必要がある。樹種は、イチイガシやスタジイなど陰樹の常緑広葉樹などが考えられる。これらは、ドングリを実らせるので、シカの生育環境にも寄与する。

##### ② 尾根の裸地部への補植

尾根の裸地部は、数年前にナラガレが原因で枯死したコナラ大木や台風で風倒したサクラ類が生育していたところで、日照条件が良く乾燥しているため、この環境に適した樹種を植栽することが望ましい。具体的な樹種は、アカマツ、コナラ、エノキ、ムクノキなどが考えられる。

#### 3) メイン園路から若草山への眺望確保

メイン園路から若草山への眺望を阻害する樹木は、園路上の位置によって大きく異なり、また多数の樹木が重なりあって阻害しているところが多いことから、眺望を確保することが重要な地点で、かつ阻害樹木への対策が比較的容易な地点を優先して、眺望の確保を検討する。

具体的には、次の実施計画の段階において、詳細調査を行い、眺望確保の具体的な対策を検討する。